



校内研通信

本渡北小学校

令和5年 11月2日(木)

第6号 岡田 明日香

研究授業④を振り返って(10/23~25実施分)

算数部会：岡部先生

単元名

面積

本時の目標

L字型等の複合図形を分割したり補完したりしてその面積を長方形の面積の公式を使って求め、説明する。

視点1 課題設定の工夫

「ジャンプの問い」では、前半の学習をもとに、違う形でも、分けたり、つぎたしをしたりすることで、長方形と正方形の面積の公式を用いることができることに気づかせる。(構想案より)

→学んだ2つの方法のうち、どちらの解き方がよいか選択して、自力で解決しようと取り組む姿が見られました。また、困っている児童にはグループで教え合う姿も見られ、グループで解決しようと主体的に取り組むことができていました。事後研では、適応問題の取り扱いについて検討を行いました。ただの練習問題として行うのではなく、子ども達の思考を深めるような問題になるよう、適応問題を解く場合にも発問の仕方など工夫が必要であるという話が出ました。

視点2 探究的な学び合いの充実

図に書き込みながら、式を立て、自分の考えをまとめ、自分の考えをグループ学習で聞いてもらう機会を設ける。(構想案より)

→グループ学習のときには図形の辺や、形を指し示しながら、解き方を互いに説明する姿が見られました。また、1人ではなかなか正解を導くことができなかった子も、グループ学習を通して、納得しながら課題に取り組むことができていました。事後研では、協同学習の時間を多くとるための工夫について検討を行いました。1人の発表を全員で聞くなど、全体での学習内容の確認や、教員の丁寧な解説の時間ももちろん大切ですが、本時のような問題解決型の学習の場合は、児童同士がグループ学習やワールドカフェ方式などの手段を用いて教え合うことが中心になるとよいのではないかという意見が出ました。



算数部会：岩崎先生

単元名

円と球

本時の目標

長さを写し取る道具としてのコンパスの使い方を理解することができる。

視点1 課題設定の工夫

「ジャンプの問い」では、前半の学習活動よりさらに提示した問題に取り組み、学習したことを活用する力を高める。(構想案より)

→学習したことを活用しながら適応問題に取り組む姿が見られました。また、本時の課題とジャンプの課題の2回、コンパスで長さを写し取る課題を行ったことで、コンパスを使う有用性を児童が実感することができていました。こちらの事後研でも、適応問題の取り扱いについて検討を行いました。本時は知識・技能を身につけることをねらいとした学習だったので、写し取る機会をさらに増やせる複雑な図形を取り扱ったり、定規とコンパスそれぞれの良さを比較したりするなど様々な工夫法について話し合いました。



視点2 探究的な学び合いの充実

ペアで問題解決をしながら活動することで、自分の考えを対話的に伝わるようにする。(構想案より)

→ペア学習を行ったことで、課題に対して主体的に取り組むことができた児童が多かったです。また、児童の素直な意見を採り上げたことで、一人一人が「自分もやってみたい!」「たくさん写し取りたい!」という思いをもつことができ、学級として前向きに学習に取り組む姿が見られました。事後研では、中学年での学び合いについて話が出ました。算数部会として、できるだけ全体の発表を少なくして、子ども達の課題解決がメインの授業をつくることのできるよう、中学年でもグループ学習の中で共同解決を通して課題解決を行い、全体での発表の時間を少なくする授業づくりを行いたいという意見が出ました。

理科・社会・生活・音楽部会：藤ノ木先生

単元名 自動車生産にはげむ人々

本時の目標 消費者のニーズや社会の動向に応えるために、これからの自動車生産が目指すべき自動車会社のキャッチコピーを、これまでの学習内容を根拠にしたり解釈したりして、表現することができる。

視点1 課題設定の工夫

「つかむ」でキャッチコピーを作るというゴールの姿を共有し、「もとめる・ふかめる」ではキャッチコピーを作るための根拠となる大切なキーワードを毎時間事に蓄積していくという、ゴールを見通し、毎時間の学習をつなげて、学習を進められるようにする。(構想案より)

→「つかむ」でキャッチコピークイズを行ったことで、児童がキャッチコピーとは何かを明確に捉え、ゴールの姿をイメージすることができていました。また、毎時間事に学んだことを蓄積したことで、根拠を明確にしながらキャッチコピーをつくることできていました。事後研では、それぞれの授業の学びをつなぐ課題設定について話が出ました。今回はこれまでのグループの学びを活用して、個人でキャッチコピーを考える課題を行いました。たくさんあるキーワードの中から特に取り入れたいキーワードを選ぶなど、グループで必要な情報を取捨選択してキャッチコピーを考えるなど、全ての子ども達が主体的に取り組むことができる課題にするにはどうすればよいか検討しました。



視点2 探究的な学び合いの充実

プロジェクト会議やワールドカフェなど様々な形の交流をすることで、主体的なつながりを促す。(構想案より)

→ジャムボードを活用し、互いの考えを見ながらキーワードを振り返ったり、キャッチコピーを考えたりすることができていました。また、ワールドカフェ形式で自分達の班の考えを説明する場を設けたことで、さらに自動車生産についての理解を深めることができていました。事後研では、効果的な ICT 活用について話し合いが行われました。本時はグループのメンバーの考えが見ることができるようなジャムボードを作成していましたが、自分たちだけでなく、全グループのキャッチコピーを見ることをできるようなジャムボードでもよかったのではないかという意見がでました。それぞれメリット、デメリットがあるので、児童の実態を踏まえて ICT の活用について考えていく必要があるという話が出ました。

道徳部会：赤坂先生

題材名 かけがえのない生命「東京大空襲の中で」D(19) 生命の尊さ

本時の目標 大変な戦火の中でも、自分の命を顧みず、患者さんを助けようとした看護師の方々の思いを考える活動を通して、自分だけではなく他者の生命も救い、守り抜こうとする心情を育てる。

視点1 課題設定の工夫

中心発問を「看護師の人たちは自分の命も危険なのに、なぜそこまでして武者さん親子をたすけたのだろう。」とし、その理由について考えを深めていく。(構想案より)

→命を大切にすることについて、登場人物の行動をもとに児童が様々な視点から考えることができていました。また、多様な価値観が出るよう、板書を工夫したり、声かけを行ったりするなど児童一人一人が認められるような授業づくりが行われていました。事後研では、発問に対して多様な価値観が出るような教師の関わりについて話し合いました。今回の授業では学習のテーマを提示する前に、修学旅行の学びを想起させたり、修学旅行後の日記から学びを振り返ったりするよう

な教員の声かけがありました。日常生活と学習のテーマを結びつけることで、さらに多様な価値観を引き出すことができるのではないかという話が出ました。

視点2 探究的な学び合いの充実

全体交流で友達の考えを聞き、シールを使って意思を示すことで、より多面的・多角的な考えをもつことができるようにする。(構想案より)

→ペアトークやシールを活用した交流など、テーマについて自分だけでなく、友達の考えを取り入れられるような授業づくりが行われていました。また、全員が授業に参加し、自分の考えを述べたり、友達の考えに反応を示したりする姿が見られました。事後研では、交流の仕方を見習いとして共有するかについて検討が行われました。交流の仕方をモデル(効果的な声かけ)として示すと、もっと効果的であったのではないかという意見も出て、より充実した学び合いになる授業づくりや教員の関わり方について考えたいと話が出ました。

特別支援部会：平野先生

単元名 自分も相手も気持ちのよい会話を楽しもう

本時の目標 お互いに楽しくなる聞き方を見つけ、会話を楽しむことができる。

視点1 課題設定の工夫

学校生活の中での出来事を取り上げることで、自分事として考えやすいようにする。(構想案より)

→自分たちの困り事に関する場面を取り上げた課題を設定したことで、自分事として考えたり、活発に意見を出したりすることができていました。また、会話の場面を想像しやすいような会話形式の学習シートだったため、どのような相槌をうつとよいのか一生懸命考える姿が見られました。事後研では、ねらいに沿った相槌や反応の仕方に対する考えが自然に児童から出るには、学習シートや発問などどのように工夫できるかについて協議を行いました。これまで人の発表に対して「いいね」「すごい」などの反応を示してきた経験を生かしたり、実際に学習シートと同じ場面で会話をしたりするなど、学習シート上だけで考えるのではなく、様々な手段で課題に取り組めるとよいのではないかという意見が出ました。



視点2 探究的な学び合いの充実

相手を変えてロールプレイの場を設定することで、いろいろな相槌の打ち方を体験させる。(構想案より)

→担任対児童、児童同士、参観している教員など、相手を変えながらロールプレイを行ったことで、繰り返し実践したり、会話を楽しんだりする姿が見られました。事後研では、もっと会話をする場面を増やすことはできないか協議を行いました。学習シートに記入する前に少しロールプレイを取り入れるなど、様々な工夫ができるのではないかという意見が出ました。

特別支援部会：木山先生

単元名 みんなでやろう

本時の目標 友達となかよくゲームするために、困ったときどうしたらよいかを考えることができる。

視点1 課題設定の工夫

学習の必要性を感じ、主体的な学習をするために、児童の生活の場面の中から課題を設定する。(構想案より)

→単元の第1時に、これまでの集団でのゲームや遊びを振り返り、困ったランキングを作成したことで、本時の課題に対しても自分事として取り組むことができていました。また、掲示物にもこれまでの学びの足跡が残っており、既習事項を活用しながら本時の課題に取り組む姿が見られました。事後研では、導入の課題について協議が行われました。授業の終末には、輪投げゲームを行い、本時の学びをまとめにつなげていたので、導

入でも輪投げゲームを取り入れることで、児童自身も成長を実感することができたのではないかという意見が出ました。

視点2 探究的な学び合いの充実

友達の気持ちを知ったり、自分の気持ちを比べたりするために、感想を伝え合う場を設定する。(構想案より)
→終末の輪投げゲームの活動の際には、自分たちでルールを確認しながら取り組んだり、乗り気でない児童を優しく誘ったりするなど、温かい雰囲気の中で学習を進めていました。また、気持ちを切り替える方法を自分で選択し、ネームプレートを活用して発表をしたり、その方法を互いに共有し、認め合ったりすることで、自分の考えに対する理解を深めることができました。事後研では、学び合いの内容について協議が行われました。今回の授業では、輪投げゲームの感想を伝え合う活動をグループで行いました。授業で学んだことを生かしたり、互いに認め合ったりすることができ、学びを深めるための学び合いだったという意見が出ました。



◎今後の研究授業で深めていきたいこと

研究授業①	児童の実態を踏まえた「目指す児童の姿」の設定(視点1) 児童の実態や、発達段階を踏まえた「学び合い」の仕方の工夫(視点2)
研究授業②	本時のねらいに沿った課題やまとめ、ジャンプの問いの設定(視点1) ICTを効果的に活用するための、教師のスキルアップ(視点2)
研究授業③	児童が主体的に取り組むことができるような課題の設定→教師主体から児童主体へ(視点1) 児童の実態を踏まえ、意図を明確にした「学び合い」の具体的な姿(視点2)

研究授業④を踏まえて・・・

☆これまでの経験や学びをつなぐことができる課題の設定(視点1につながる)

今年度の研究主題の副題は「児童同士がつながり、学びをつなげる授業づくり」です。学び合いを通して児童同士の考えがつながることももちろんですが、“学びをつなげる”には、児童のこれまでの経験や単元を通して得た知識をつなぐことも大切にしてほしいという思いを込めています。今回のそれぞれの授業では、児童同士だけでなく、既習事項や体験活動、授業を通して学んだことなど、これまでの児童自身の学びを生かして取り組む姿が見られました。本時のメインとなる課題や、ジャンプの問い(学習)は、これまで得た知識を使い、学びを深めることができるようなものになるよう研究を重ねていきたいですね。

☆児童が主体的に取り組むことができる学び合いの充実(視点2につながる)

全員が授業に参加し、自分の考えを伝える場をつくるためには、学び合いの場面が必要不可欠です。今回の研究授業でも多くの場面で児童同士が関わる様子が見られ、児童が話をする時間を増やすことができるよう、先生方が様々な工夫をしてくださいました。私は全ての研究授業を参観させていただいていますが、部会ごとに、その学び合いの様子に工夫が見られます。研究授業を通して、様々な学び合いの様子を知り、教科の特性や本時のねらいに沿った学び合いについて、先生方と考えていければと思います。11/8(水)は中研で、他の部会の研究授業を見る機会となります。それぞれの先生方がどのような思いで学び合いの充実を図っているのか、私たちも学び合っていきましょう。